

| | | | |
|------------------------|-----|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 前期 | 3 | 1 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 南部 登志江・阿部 真幸・大和支麻・長田律子 | | | |
| 火1、2 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|-------|---|
| 科目の概要 | <p>本科目では、高齢者への看護展開に必要な既習の知識を統合し、実践する方法をグループワークなどの演習を中心として学ぶ。</p> <p>老年期特有の発達課題について概説し、紙上患者による高齢者の看護過程を展開する。看護課題等の抽出、援助計画立案の演習を行う。高齢者の生活機能、意思尊重の視点からグループワークを行い、チームでのコミュニケーション能力、多様な視点を身につけることを目指す。</p> |
| 授業の内容 | <p>第1回 ガイダンス（シラバス確認、学習グループ確認 看護過程の展開） 看護過程の展開、学習内容の再確認を行う。自己学習の計画立案、グループ学習の計画立案を行う。時間外学習：事例をしっかりと読み、発達段階、疾患、看護についてテキストや2年次の授業の資料を読んで確認する。</p> <p>第2回 【講義・グループワーク】看護過程の展開 紙上患者の事例展開：各自・各グループ計画に基づいた演習の実施 立案した計画に基づき情報の整理、アセスメント 時間外学習：授業でできなかった情報の整理、アセスメントを進める。</p> <p>第3回 【講義・グループワーク】看護過程の展開：各自・各グループ計画に基づいた演習の実施 立案した計画に基づき情報の整理、アセスメント 時間外学習：授業でできなかった内容を進める。</p> <p>第4回 【講義・グループワーク】看護過程の展開：各自・各グループ計画に基づいた演習の実施 情報の分析、関連図による全体像の把握、看護計画の立案 各自で進めつつグループで共有を行い、内容をブラッシュアップする。 時間外学習：授業でできなかった内容を進める。</p> <p>第5回 【講義・グループワーク】看護過程の展開：各自・各グループ計画に基づいた演習の実施 情報の分析、関連図による全体像の把握、看護計画の立案 各自で進めつつグループで共有を行い、内容をブラッシュアップする。 時間外学習：授業でできなかった内容を進める。</p> <p>第6回 【講義・グループワーク】看護過程の展開：（1回～5回までのグループ学習内容）の成果発表 グループごとに演習成果の発表。あらかじめ、各グループでプレゼン方法の検討をしておく。 時間外学習：発表を聞いて追加・修正があれば行い、授業中にできなかった内容を進める。</p> <p>第7回 【講義・グループワーク】看護過程の展開 グループごとに演習成果の発表。あらかじめ、各グループでプレゼン方法の検討をしておく。 成果を共有し、各自の演習内容の見直し 時間外学習：次回以降の各自の演習内容を再確認し、必要に応じて計画の修正をする。</p> <p>第8回 【演習】高齢者疑似体験① 高齢者役を体験し、高齢者の視点、立場、身体機能の低下が及ぼす影響理解 予習：既習の高齢者の特徴を復習しておく。 復習：学びの体験をまとめる。</p> <p>第9回 【演習】高齢者疑似体験② 援助者役を体験し、高齢者に必要な援助とその根拠、安全・安楽な環境を考える。 予習：既習の高齢者の特徴を復習しておく。 復習：学びの体験をまとめる。</p> <p>第10回 【講義・演習】アクティビティケアの実際① アクティビティケアについての講義を受け、グループで1つのアクティビティケアを立案する。 予習：老人保健施設で実施できるようなアクティビティケアを考えて記録用紙にまとめる。 復習：資料を確認する。</p> <p>第11回 【講義・演習】アクティビティケアの実際② グループでアクティビティケアをまとめ、必要な物品を準備 復習：計画内容を確認する。</p> <p>第12回 【講義・演習】食事と栄養① 高齢者の嚥下状態に合わせた食事内容、口腔ケア 予習：既習の摂食嚥下、口腔ケアの方法について記録用紙に記入する。 復習：資料や体験から学びをまとめる。</p> <p>第13回 【講義・演習】食事と栄養② 嚥下体操、経管栄養 予習内容に沿って嚥下体操を体験する。 経管栄養法の種類や留意点、モデルを用いた演習 予習：嚥下体操、経管栄養の目的と方法を記録用紙に記入する。 復習：学びをまとめる。</p> <p>第14回 【講義・演習】認知症サポーター講義養成講座 認知症の理解、かかわり方をサポーター養成講座として学ぶ。 予習：既習の資料から、認知症および看護について復習しておく。 復習：配付された資料を確認する。</p> |

| | |
|---------------------------|--|
| | <p>第15回 グループで作成したアクティビティケア案発表、実施、最終のまとめ学びをまとめ提出する。</p> <p>定期試験</p> |
| 学習到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識（理解）：老年期特有の発達課題、高齢者が生きてきた時代背景等について、高齢者の視点に立って説明できる。 2. 思考・判断：看護過程展開の意義を確認し、事例のアセスメントの視点を説明できる。 3. 態度（関心・意欲）：事例の看護過程展開に意欲的に取り組み、老年看護への関心を高める。 4. 技能（表現）：高齢者疑似体験、栄養、アクティビティケアなどの演習を通して高齢者の日常生活維持についての具体的援助方法について表現できる。 5. 思考・判断と技能（表現）：高齢者特有の事例をその人らしさや生活の質について考察し、討議できる。 |
| 授業の方法 | <p>【授業形態】 講義・演習・グループワーク</p> <p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 学生自身が授業内容に対して調査・学習し主体的に学習できるように事前課題、事後課題などを提示しながら授業に取り組む。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 状況により、取り入れることも多いので、各自速やかに利用できるよう、パソコン、スマホなど機器の準備・確認をしておく。質問等はできるだけ授業時間内で解決する。</p> <p>【その他特記事項】</p> |
| 成績評価の方法 | <p>【評価項目】 最終評価の資格及び成績評価は、学生便覧に基づく。 到達目標1～5：課題レポート（提出物）、定期試験、受講態度を総合的に判断して評価する。</p> <p>【割合】 課題レポート40%、受講態度10%、定期試験50%</p> |
| 教科書・テキスト | <ol style="list-style-type: none"> 1. 奥宮暁子：ウエルネスの視点に基づく看護過程 医歯薬出版株式会社 2. 毎回配布の授業資料 3. その他、老年看護学概論及び老年看護援助論で使用したテキスト |
| 参考書 | <p>上記でその都度紹介されたもの及び各自が活用可能な教科書 奥宮暁子他：生活機能のアセスメントにもとづく老年看護過程 医歯薬出版株式会社</p> |
| 授業時間外の学修について（事前・事後学習について） | <p>個人及びグループでの時間外学修が必要となる。各自の役割を果たさないと他者への迷惑となる。計画的に学ぶべきことを組み立て、積極的に取り組むことが必要である。</p> |
| 履修上の留意事項 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 開講時間や教室は変更となる可能性がある。アナウンスや掲示、Aポータルでの連絡に注意すること。 2. 提出物は締め切り時間を過ぎたものは一切受け取らない。 3. 課題解決に向けて早期の自分自身の学習方法を見つけ、実施できることを望む。積極的に学び、考えることを期待する。 |
| オフィスアワー | <p>第1回ガイダンス時に説明をする。</p> |
| 課題に対するフィードバックの方法 | <p>複数教員で事前課題、継続課題、事後課題などをもとに指導する。再提出を指導される場合もある。</p> |
| 実務経験 | <p>南部：看護師 阿部：看護師、保健師 大和：看護師</p> |
| その他 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 演習は実習へ連動する科目であるため、看護過程の展開を熟知すること。また、自分に合ったテキストを図書館等で発見し、自身の実習等に活用できる準備をすることを期待する。 2. グループワークを通して、チームダイナミクスが活発に行えるよう努力することを期待する。 3. グループリーダー、サブリーダー、発表等の役割を各自で1回はとること。 4. 実践内容は、確実に実践できるように準備を行うこと。 |